

IV. 機構・職員・予算

1. 機 構

A. 機 構 の 概 要

生産技術研究所は日常の業務遂行の面から、研究部と事務部とに大別される。

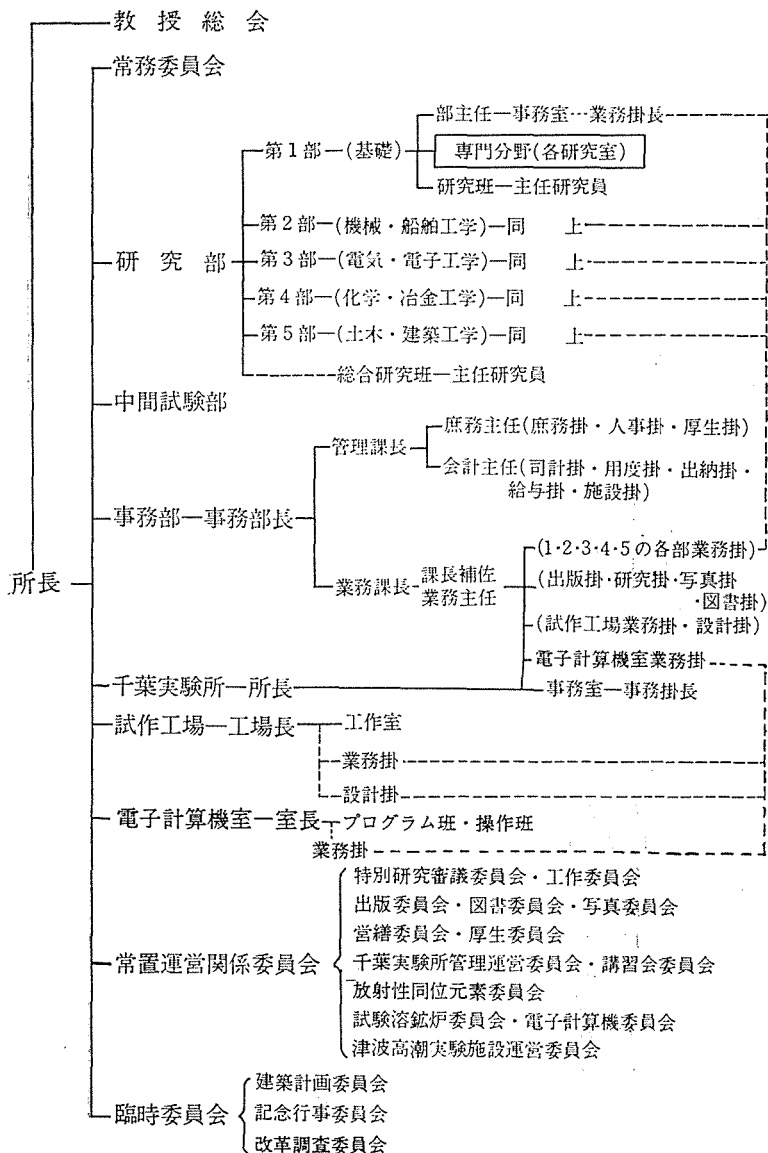
研究部は、運営の便宜上、5部門に分かれ、部ごとに互選による2名の常務委員がいて部の日常の業務処理に当たる。常務委員のうち1名は、部主任として部を代表する。常務委員は、常務委員会を組織し、所長の諮問機関として毎月2回、必要によりそれ以上会議を開催している。研究部は研究室から成り立っており、また、その部の専門を適当に分類した専門分野表は1ページ「沿革」の項に掲げたとおりである。

中間試験部は、基礎部の基礎研究として完成したもので、これを工業化へ移すための中間規模の試験研究を行なうところで、毎年各部から2名ずつ選出した委員の組織する特別研究審議委員会で研究課題を審議選定し、特別の予算をつぎこんで実施している。また受託研究の一部には中間試験研究になるものがある。

本所の重要事項は教授総会で決議する。教授総会は教授・助教授によって組織され、毎月2回定期に開催している。ほかに教官同志の知識向上をはかる輪講会が毎月1回行なわれる。

そのほかに所員がそれぞれの専門的立場から組織する各種委員会、運営関係を担当する諸委員会がある。これらは各部から選出する教授・助教授または講師が委員となって構成されるもので、委員長は教授総会で選出されるものと所長委嘱によるものがある。その種類は次ページB. 機構図にあるとおりで、内容は巻末の委員会諸規定を参照されたい。

B. 機 構 図



2. 職 員

A. 現 員 表 (45. 4. 1 現在)

a. 職種別職員数

区分	教授	助教授	講 師	助 手	技 官	事務官	技能員	用務員	合 計
職員数	41 *9	43 *1	8	84	178	109	6	14	483 *10

* 印併任

b. 諸系統別職員数

区分	研 究 系 統						事務系統		技術系統		技能労務系統				その他		合 計			
職 種 別	教 授	助 授	講 師	研 究 担 当	研 究 員	助 手	技 官	事 務 官	技 官	技 官	事 務 官	技 能 員	用 務 員	計	日 雇 者	計				
職員数	41 *9	43 *1	8	8	47	84	182 *10	249	101	101	115	115	45	8	6	14	73	28	28	566 *10

* 併任印

B. 職 員 名 簿

第 1 部

官 職	氏 名	学 位	官 職	氏 名	学 位
教 授	一 色 貞 文	工 博	助 教 授	本 間 禎 一	工 博
”	大 井 光 四 郎	”	”	中 桐 滋	”
”	鳥 飼 安 生	理 博	”	小 倉 馨 夫	理 博
”	山 田 嘉 昭	工 博	”	岡 田 恒 男	工 博
”	北 川 英 夫	”	講 師	鈴 木 敬 愛	理 博
”	小 瀬 輝 次	”	研究担当	秋 葉 鏢 二 郎	工 博
併任教授	森 大 吉 郎	”	研 究 員	斎 藤 弘 義	”
”	玉 木 章 夫	”	”	林 主 税	理 博
”	富 永 五 郎	理 博	助 手	鈴 木 寛 文	”
助 教 授	成 瀬 文 雄	”	”	藤 森 聰 雄	”
”	辻 泰	”	”	未 七 郎	”
”	根 岸 勝 雄	”	”	高 橋 英 男	”
”	田 村 重 四 郎	”	”	山 沢 富 雄	”

助 手	輪加小金山	竹藤倉子岡崎	千勝公幸邦正	三勝公幸邦正	郎行達臣郎之	工 修	助 手	森木松芳久	地下本野保田	重時年俊敏	暉重男彦弘	工 修	工 修
-----	-------	--------	--------	--------	--------	-----	-----	-------	--------	-------	-------	-----	-----

第 2 部

教 授	鈴平亘水松大石高植柴竹田森川佐棚大木前中大小吉荒原千安橋菊井菅矢	木尾理町永島原橋村田中宮井藤沢野内田川林識木々岩藤池田谷吹	弘収厚生久郎男伯義碧雄真弘彦芳郎一学明雄雄夫郎雄児夫雄一夫彦豐	工 博	研 究 員	柳杉平富五木松梅山前黒小佐小合荒小小萩立重小岡古遠鈴永山西高中	本本山成味村岡谷口田田倉柳林田木口林清田石田畑本屋藤木田本山橋島	左隆直 浩 陽 照道義和節周献泰市善泰達和 七敏浩真芳正伸	門尚道 夔努哉信二惇行雄郎男夫平次平郎明三也彦智郎彦平一孝一晃聰	工 博	工 博	工 博	工 博
併任教授													
助 教 授													
講 師													
研究担当													
研 究 員													

助 手	古 江 藤	谷 口 谷	国 純 義	貴 弘 信	工 修	助 手	阿 小	高 林	松 幹	男 夫	工 修
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"

第 3 部

教 授	森 沢 斎 渡 尾 安 浜 河 野 山 安 高 藤 高 原 生 浜 長	脇 井 藤 邊 上 達 崎 村 村 口 田 羽 井 木 島 駒 田 谷 部	義 三 成 守 芳 裏 達 民 楠 靖 禎 陽 幹 文 俊	雄 郎 文 勝 夫 夫 二 雄 也 雄 彦 雄 一 雄 明 喬 望	工 博	研究担当	後 森 角 麻 吉 岡 山 横 藤 横 田 稻 赤 北 市 栗 中	川 田 生 田 田 山 田 田 代 文 葉 尾 条 川 原 嶋	昭 正 豊 忠 裕 三 博 幸 良 和 之 宗 準 初 起 邦	雄 典 三 雄 一 男 章 嗣 雄 丸 助 博 一 一 男 子 宏	工 博
"	"	"	"	"	"	研 究 員	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	理 博	"	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	工 博	助 手	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
併任教授	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
助 教 授	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
講 師	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"

第 4 部

教 授	江 上 一 郎	浅 原 照 三	加 藤 正 夫	野 崎 弘 郎	山 边 武 郎	中 村 亦 夫	武 藤 義 一	今 岡 稔 充	館 添 邦 太	河 山 本 精 一	西 川 善 四	原 善 四	工 博	助 教 授	後 早 明 本 妹 石 高 中 鈴 久 吾 松 為	藤 野 石 多 尾 田 橋 根 木 保 妻 下 広	信 茂 和 健 洋 千 基 幸 重	行 夫 夫 一 学 一 浩 富 之 靖 潔 雄 雄	工 博	
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
併任教授	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
助 教 授	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"

研究員	木石高白渡藤小坂坂西小三中竹和長大佐	村黒木鳥辺代林井田島橋島内田島藤	恒鉄行高市光昌徹俊久和啓利芳和忠乙	行郎雄行郎雄敏郎文夫了誠雍裕雄男丸	工博	助手	井杉山阿大長篠甘鋤白豊石木飯堤田小鳥	上 衣世 健子 山 部照衛 阿 藏明光 大 谷川洋 長 塚利則 篠 塚利武 甘 鋤柄光 白 鋤石振 豊 島石作 石 島喜 木 塚隆 飯 瀨秀 堤 田武 田 中貞 小 川昭 鳥 羽山	工工工工理工工工工工工工	博修博博博博博博博博博博博博博博
-----	--------------------	------------------	-------------------	-------------------	----	----	--------------------	---	--------------	------------------

第 5 部

教授	星丸勝久池井田高三石村小川越高原吉中高	埜安田保辺口中山木井松小林股梨田村橋	和隆高慶昌英三聖貞一重正晃広英	和司郎陽平尚華郎光郎輔也毅一司裕夫裕	工博	研究員	田後川角成榎曰大金今田本佐伊村岩吉村半	治藤浦谷瀨本井島子村多藤井井野上谷	見 省 歲茂太 芳 昭暢利俊一文周裕	宏滋潔三洋勝信市豊徳直一彦治治幸雄三彦	工工理工工工工工工工工工工	博博博博博博博博博博博博博博博博
併任教授						助手						
併任助教												
研究担当												

助 手 | 重 信 恒 雄 | 工 修 || 助 手 | 宇 田 川 邦 明 | 工 修

事 務 部

(事務系役付職員)

事務部長	三 島 新 吉	給 与 掛 長	北 村 武 夫
管理課長	白 石 由 博	施 設 掛 長	石 井 三 晴
業務課長	竹 内 清	出 版 掛 長	水 野 藤 田
業務課補佐	黒 田 英 亮	研 究 掛 長	佐 藤 良 哲
庶務主任	浅 見 岡 高 春	写 真 掛 長	安 池 田 藤 田
會計主任	鶴 屋 輝	図 書 掛 長	池 遠 鈴 石 田 董 太
庶務掛長	新 佐 藤 島 重	第1部業務掛長	遠 鈴 石 田 董 太
人事掛長	福 小 松 塚 村	第2部業務掛長	鈴 石 田 董 太
厚生掛長	小 飯 島	第3部業務掛長	石 吉 永 忠 博
司計掛長		第4部業務掛長	
出納掛長		第5部業務掛長	

試 作 工 場

講 師 (併 任) | 鈴 木 正 吾 || 助 手 | 関 豊 二
試 作 工 場 長

電 子 計 算 機 室

講 師 (併 任) | 藤 田 長 子 | Ph. D ||
(電子計算機室長)

年 間 異 動

官 職	氏 名	発令年月日	備 考
助 教 授	柴 田 碧	44. 4. 1	教 授 昇 任
〃	河 村 達 雄	〃	〃 〃
〃	河 添 邦 太 朗	〃	〃 〃
	前 田 久 明	〃	助 教 授 採 用
	浜 田 喬	〃	〃 〃
	原 広 司	〃	〃 〃
	鈴 木 敬 愛	〃	講 師 〃
助 手	平 野 興 彦	44. 7. 1	〃 昇 任
工学部助手	鈴 木 基 之	44. 8. 16	〃 〃
助 教 授	竹 内 雅	44. 9. 30	辞 職
事務部長	白 方 之 次	44. 11. 1	停 年 退 職

学生部次長	三島新吉	45. 2. 16	生産技術研究所事務部長配置換
助手	久保靖	45. 3. 1	講師昇任
講師	梅谷陽二	"	助教授(東京工業大学)
	中川威雄	45. 3. 15	"採用
助手	荒木甚一郎	45. 3. 31	講師昇任
教授	富永五郎	"	工学部配置換
"	岡本舜三	45. 3. 31	停年
講師	平野興彦	45. 3. 31	辞職

C. 名 誉 教 授

故井口 常雄,	瀬藤 象二,	故友田 宣孝,	谷 安生,	星合 正治
岡 宗次郎,	渡辺 要,	福田 武雄,	高橋 武雄,	永井 芳男
福田 義民,	坪井 善勝,	菊池 真一,	星野 昌一,	関野 克

3. 決 算 と 予 算

A. 昭和 43 年度才出決算額

総 額	金 額	百 分 率	
総 額	872,592,941	100.00%	
職 員 給 与	522,791,341	59.91	
校 費	307,377,700	35.23	100.00%
各 研 究 部 研 究 費	93,623,600	10.73	30.46
設 備 費	62,900,000	7.21	20.46
特 別 研 究 費	21,535,000	2.47	7.01
特 殊 装 置 運 転 経 費	13,967,100	1.60	4.54
大 学 院 学 生 経 費	7,592,200	0.87	2.47
研 究 生 経 費	223,700	0.03	0.07
図 書 費	7,523,400	0.86	2.45
出 版 費	5,714,000	0.65	1.86
試 作 工 場 経 費	4,880,000	0.56	1.59
計 算 機 室 経 費	2,897,500	0.33	0.94
写 真 室 経 費	1,108,000	0.13	0.36
千 葉 実 験 所 経 費	7,762,400	0.89	2.52
職 員 厚 生 経 費	664,000	0.08	0.22
共 通 経 費	76,986,800	8.82	25.05
受 託 研 究 費	24,674,000	2.83	
受 託 研 究 員 費	3,160,000	0.36	

職員旅費	5,299,000	0.61
受託研究旅費	2,750,000	0.31
各所修繕	6,300,000	0.72
諸謝金	240,900	0.03

B. 昭和44年度才出予算額

	金額	百分率	
總額	908,659,000	100.00%	
職員給与	550,000,000	60.53	
校費	317,694,000	34.96	100.00%
各研究部研究費	95,933,000	10.56	30.20
設備費	55,700,000	6.13	17.53
特別研究費	22,555,000	2.48	7.10
特殊装置運轉経費	13,647,600	1.50	4.29
大学院学生経費	8,718,000	0.96	2.74
研究生経費	173,000	0.02	0.05
図書費	8,441,000	0.93	2.66
出版費	7,457,000	0.82	2.35
試作工場経費	9,190,000	1.01	2.90
計算機室経費	9,426,000	1.04	2.97
写真室経費	3,664,000	0.40	1.15
千葉実験所経費	7,846,000	0.86	2.47
職員厚生経費	659,000	0.07	0.21
共通経費	74,284,400	8.18	23.38
受託研究費	24,500,000	2.70	
受託研究員費	3,160,000	0.35	
職員旅費	5,218,000	0.57	
受託研究旅費	2,500,000	0.27	
各所修繕	5,350,000	0.59	
諸謝金	237,000	0.03	

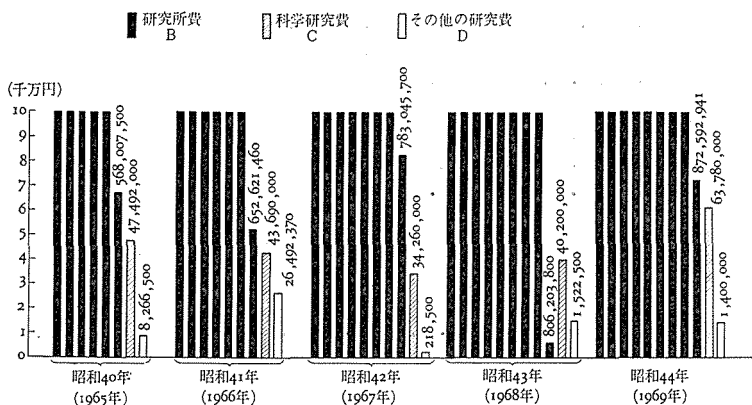
C. 文部省科学研究費関係（昭和44年度）

総 額	63,780,000
一 般 研 究	35,000,000
奨 励 研 究	760,000
総 合 研 究	5,200,000
試 験 研 究	13,520,000
特 定 研 究	9,300,000

D. その他の研究費（昭和44年度）

総 額	49,633,145
文部省科学研究費分担金	1,400,000
奨学交付金	48,233,145

(B+C+D) 1,022,072,145



最近5ヶ年間の諸経費増減比較表

4. 昭和44年度のおもな記録

A. 教授総会開催日表

4. 16, 5. 7, 21, 6. 4, 18, 7. 2, 16, 8. 7, 9. 17, 10. 1, 15, 11. 5, 19, 12. 3, 17, 1. 21, 2. 4, 18, 3. 4, 18
--

B. 各種委員会開催日表

委員会	開催日 (臨)は臨時委員会
常務委員会	4. 2, 16, 5. 7, 16(臨), 21, 23(臨), 26(臨), 28(臨), 6. 4, 18, 25, 7. 2, 9(臨), 16, 30(臨), 8. 4, 7, 13(臨), 20, 9. 3, 17, 10. 1, 9(臨), 15, 29, 11. 5, 12, 19, 12. 17, 24(臨), 45. 1. 14, 21, 2. 4, 18, 25(臨), 3. 4, 18
特別研究審議委員会	4. 9, 23, 30, 6. 11, 25, 7. 23, 8. 25, 10. 29, 11. 5, 12, 19, 26, 12. 3, 10, 17, 24, 45. 1. 14, 21, 28, 2. 4, 18, 25, 3. 11
工作委員会	9. 10, 11. 26, 45. 3. 11
出版委員会	4. 23, 5. 28, 6. 25, 7. 23, 9. 24, 10. 22, 11. 26, 12. 24, 45. 1, 28, 2. 25, 3, 25
図書委員会	5. 1, 6. 25, 9. 10, 10. 22, 12. 24, 45. 1, 28, 2. 25, 3. 25
写真委員会	4. 4, 25, 7. 21, 12. 3(臨), 45. 1. 30, 3. 27
管轄委員会	4. 16, 5. 8, 6. 4, 7. 9, 8. 13, 9. 10, 10. 8, 11. 12, 24, 45. 1. 28, 3. 25
厚生委員会	5. 19, 7. 11, 10. 27, 11. 6. 11, 28, 12. 6, 45. 3. 20
講習委員会	4. 23, 5. 13, 6. 3, 16, 9. 25, 12. 15, 45. 1. 20
千葉実験所管理運営委員会	4. 21, 5. 13, 12. 1, 45. 1. 26, 3. 20
放射性同位素委員会	45. 2. 13
試験溶鉱炉委員会	4. 14, 8. 12, 45. 1. 23
電子計算機委員会	4. 23, 5. 14, 6. 24, 7. 9, 23, 9. 8, 10. 22, 11. 26, 45. 1. 28, 2. 27, 3. 25
津波高潮実験施設運営委員会	
予算委員会	4. 23, 9. 24, 10. 22, 11. 26, 12. 24, 25, 45. 3. 11 (すべて臨時)
記念行事委員会	45. 1. 30, 2. 20
改革調査委員会	4. 8, 15, 22, 30, 5. 9, 27, 6. 17, 23, 7. 1, 8, 15, 22, 8. 5, 12, 22, 29, 9. 9, 26, 10. 22, 11. 26, 12. 24, 45. 1. 14, 20, 28, 2. 6, 12, 19, 26, 3. 11, 20, 26
建築計画委員会	45. 1. 29, 2. 10, 18, 3. 3, 10, 17

C. 輪 講 会

通し回数	題 目	講 演 者	開催年月日
382	糊のはなし (特に捺染糊について)	教 授 中村 亦夫	44. 4. 16
383	プレストレストコンクリート圧力容器について	助教授 川股 重也	44. 5. 21
384	超音波の応用と音場の研究	教 授 鳥飼 安生	44. 6. 18
385	最近の海洋開発におけるイメージ・テクノロジー	〃 植村 恒義	44. 7. 16
386	新しい機能素子の可能性	助教授 生駒 俊明	44. 9. 17
387	分析自動化の諸問題	教 授 武藤 義一	44. 10. 15
388	西ドイツの大学の現状	助教授 中村 英夫	44. 11. 19
389	鉄筋コンクリート建築の耐震	〃 岡田 恒男	44. 12. 17
390	油圧工学における問題点	教 授 石原 智男	45. 1. 21
391	電子計算機システムの現状と将来	助教授 浜田 喬	45. 2. 18

D. 日 譜

昭和	西暦	月日	行 事
44	1969	4. 18	大学問題所内第 1 回シンポジウム開催
		4. 24	大学問題所内第 2 回シンポジウム開催
		5. 22	第 2 回目ソ製鋼物理化学シンポジウム, ソ連使節団来所 (団長 Samarin Aleksandre Mikhailorich 氏, ほか 9 名)
		5. 29	生産技術研究奨励総会, 理事会評議員会開催
		5. 29~30	研究所公開, 研究室を公開し, 講演と映画の会を行なった
		5. 30	木内四郎科学技術庁長官来所
		6. 16	生研ニュース第 1 号発行
		6. 25~27	第 7 回生研講習会開催, テーマは「インジサイエンスとイメージテクノロジー」
		7. 30	大学問題所内第 3 回シンポジウム開催
		8. 1	大学問題所内第 4 回シンポジウム開催
		3. 13	昭和 44 年会計実地検査実施
		10. 3.	全所運動会 (主催 弥生会) を東大検見川グラウンドにおいて開催
		11. 20	生産技術研究奨励会総会, 理事会, 評議員会開催
		11. 21	岡谷市校長会々員 10 名来所, 見学
		12. 4	ソ連水工学研究所 Savnoff 氏ほか 3 名来所
		12. 5	中華民国政府 Ying-tsu Mao 氏ほか 10 名来所
45	1970	1. 9	海外技術研修センター研修生 13 名来所, 見学
		2. 20	地下鉄千代田 9 号線新設工事のため敷地内の音響実験室を移転することになり, 移転予定地の建物とこわし工事を開始
		3. 11	予算委員会解散
		3. 24	10 人の会 ('68. 12. 11 設置) 解散
		3. 25	第 1 部岡本舜三教授退官記念講演が行なわれた, 講演題目は「耐震工学 30 年の歩み」